

2017年度の鉄軌道事業設備投資計画
田園都市線ホームドア整備本格着手など総額502億円
ホームドアの整備計画の前倒し、大井町線急行7両化などを実施します

東京急行電鉄株式会社

1. ホームドア整備計画の前倒し - 2019年度完了を目指し、田園都市線の整備を本格的に推進 -
2. 大井町線急行7両化による都心方面への輸送力増強と多様なサービスの提供による各路線の混雑緩和
3. バリアフリー強化や車内防犯カメラ整備、情報発信強化などによる、駅・車内空間の快適性・利便性の向上

当社は、2017年度、鉄軌道事業において、総額502億円の設備投資を行います。都心方面の輸送力増強と、鉄道運転事故・輸送障害の未然防止などの安全対策に241億円、快適で便利な電車や駅の実現に向けた付加価値向上・サービス拡充・バリアフリー強化に261億円をそれぞれ投資し、いつでもどこでも安全で安心・快適な移動ができる「いい電車」の実現を目指します。

1. ホームドア整備計画の前倒し - 2019年度完了を目指し、田園都市線の整備を本格的に推進 -

東横線・田園都市線・大井町線全64駅のホームドア整備について、2020年完了を予定していましたが、計画を約1年前倒し、2019年度の完了を目指します。

特に田園都市線では、ホームドア整備において課題となっていた6ドア車両の4ドア車両への置き換えを2017年5月中に完了し、本格的に整備に着手します。三軒茶屋駅・二子玉川駅など7駅で今年度中にホームドアの運用を開始するほか、東横線でも綱島駅などで運用を開始します。

2. 大井町線急行7両化による都心方面への輸送力増強と、多様なサービスの提供による各路線の混雑緩和

大井町線は2008年3月から急行運転を開始し、利便性が向上したことから多くのお客さまにご利用いただいている一方で、混雑率も上昇しています。今般、混雑緩和と利便性向上を目的として、2017年度下期に急行列車を6両編成から7両編成に変更し、車両新造とホーム延伸工事を進めます。

また、「バスも！キャンペーン」「早起き応援キャンペーン」など多様な施策を通じて、利用時間帯の分散を促進し、大井町線や田園都市線などの朝ラッシュ時の混雑緩和を目指します。

3. バリアフリー強化や車内防犯カメラ整備、情報発信強化などによる、駅・車内空間の快適性・利便性の向上

東横線・田園都市線渋谷駅では、新しい出口14番の使用を2017年夏に開始します。上下エスカレーターを整備し、地下3階と地上を直線で結ぶことになり、JR渋谷駅との乗換時間が短縮します。また、道玄坂改札口付近から、地上のスクランブル交差点周辺(出口6番付近)をつなぐエレベーターを新設し、利便性向上を図ります。さらに、田園都市線三軒茶屋駅やつくし野駅でもエレベーターの増設工事に着手するなど、さらなるバリアフリー強化も進めます。

また、混雑状況の「見える化」など、情報発信を強化します。駅構内の様子を配信する「駅視-vision(エキシビジョン)」の対象駅の拡充など、東急線アプリの内容を拡充するほか、駅サイネージなどに到着する列車の車両ごとの混雑度を表示する機能を付加し、分散乗車促進を図ります。

さらに、2020年の東京オリンピック・パラリンピックを見据え、テロや車内における犯罪対策として、当社で保有する全車両への車内防犯カメラ設置を進めており、今年度は33編成に設置します。

2017年度設備投資計画の詳細は別紙のとおりです。

【別紙】

2017年度設備投資計画の詳細

1. ホームドア整備計画の前倒し - 2019年度完了を目指し、田園都市線の整備を本格的に推進 -

(1) ホームドア整備

安全・安心に利用できる鉄道を目指し、ホーム上の安全対策として、東横線・田園都市線・大井町線全64駅のホームドア整備を進めていますが、整備計画を2020年から約1年前倒し、2019年度までの整備完了を目指します。

田園都市線では、課題となっていた6ドア車両の4ドア車両への置き換えを2017年5月中に完了し、三軒茶屋駅や二子玉川駅など7駅で今年度中に運用開始、池尻大橋駅などで工事に着手するなど本格的に整備を進めます。東横線では祐天寺駅や綱島駅、大井町線では荏原町駅などでも今年度中に運用を開始します。2017年度は、3路線合計13駅でホームドアの運用を開始します。



ホームドア・センサー付固定式ホーム柵設置進捗状況



ホームドア(学芸大学駅)

(2) 踏切安全対策

3D式踏切障害物検知装置を池上線池上6号踏切など8カ所に新設するほか、8カ所の更新を行います。

(3) 鉄道施設の健全性向上

2017年3月の綱島高架橋耐震補強工事竣工をもって、大規模地震で被害が甚大となる恐れのある高架橋柱の補強工事が完了しました。今後も高架橋やトンネルなどの土木構造物の長寿命化工事や、盛土や擁壁などの減災対策を推進し、鉄道施設の総合的な健全性向上を図ります。

2. 大井町線急行7両化による都心方面への輸送力増強と、多様なサービスの提供による各路線の混雑緩和

(1) 大井町線の輸送力増強

大井町線は2008年3月から急行運転を開始し、利便性が向上したことから多くのお客さまにご利用いただいている一方で、混雑率も上昇しています。今般、混雑緩和と利便性向上を目的として、2017年度下期に急行車両を6両編成から7両編成に変更し、車両新造と急行停車駅である大井町駅、旗の台駅、自由が丘駅のホーム延伸工事を進めています。

(2) さまざまなキャンペーンの実施

「バスも！キャンペーン」、「早起き応援キャンペーン」、「会員制サテライトオフィス『New Work』朝時間帯の利用無料化キャンペーン」など、田園都市線および大井町線において、「移手段を選ぶ」、「乗車時間を選ぶ」、「働く場所を選ぶ」の3つの施策を実施し、朝ラッシュ時の混雑緩和に取り組みます。今後もお客さまに多様な通勤・通学の選択肢を提供し、朝のピーク時間帯に集中する混雑の分散化に取り組みます。

3. バリアフリー強化や車内防犯カメラ整備、情報発信強化などによる、駅・車内空間の快適性・利便性の向上

(1) バリアフリー強化

快適で便利な駅空間づくりとして、東横線・田園都市線渋谷駅では、新しい出口14番の使用を2017年夏に開始します。上下エスカレーターを整備し、地下3階と地上を直線で結ぶことで、JR渋谷駅との乗換時間を短縮します。そのほか地下2階の道玄坂改札口付近と地上のスクランブル交差点周辺(出口6番付近)をつなぐエレベーターの新設、およびハチ公改札口付近と渋谷地下街をつなぐ上下エスカレーターの新設を進め、利便性向上を図ります。

また、田園都市線三軒茶屋駅やつくし野駅でもエレベーター増設工事に着手するなど、さらなるバリアフリー強化を進めます。

(2) 駅空間の快適性・利便性の向上

池上線池上駅では、改良工事に着手します。2020年9月末を目標に、北側1カ所の改札口を橋上化し、南口出口を新設します。これにより、改札内の構内踏切を廃止します。駅ビルは5階建てとし、まちのさらなる発展に資する拠点を目指して、地域に求められる保育園、公共・公益施設などの生活支援施設や、店舗の導入を検討していきます。



渋谷駅出口14番イメージ



池上駅イメージ(リニューアル後)

(3) 安全で快適な車内空間づくり

快適で便利な車内空間を実現するため、田園都市線に新型車両「2020系」を30両(10両×3編成)導入します。車内には「ナノイー(※)」方式の空気清浄機を設置し、座席はハイバック仕様を採用することで車内の快適性向上を図ります。また、ドア上・連結部・座席上にデジタルサイネージを配置し、多言語案内の充実化を図るとともに、ニュースや天気予報など充実した情報サービスを提供します。さらに、全車両に防犯カメラを設置し、車内のセキュリティを向上させるとともにフリースペースを設置することで、車いすやベビーカーをご利用の方を含めたすべてのお客さまに安心・快適にご利用いただける車内空間をめざします。

また、東京オリンピック・パラリンピックを見据え、2020年までにテロや車内における犯罪対策として、当社で保有する全車両への車内防犯カメラ設置を進めます。2017年度は、33編成(151両)に設置し、約31%の編成に設置が完了します。また、引き続き駅係員や東急セキュリティ鉄道警備隊による警備・巡回などを行い、常に安全・安心にご利用いただける空間づくりに取り組みます。

※「ナノイー」はパナソニック株式会社の商標登録です



田園都市線 新型車両「2020系」エクステリアイメージ



田園都市線 新型車両「2020系」インテリアイメージ

(4) 混雑状況の「見える化」など、情報配信の強化

運行見合わせなどの輸送障害が発生した際に、東急線アプリを中心に列車の現在の走行位置や目的地までの最新の所要時分実績など、行動判断の一助となる情報提供を強化します。

駅構内の様子を配信する「駅視－vision(エキシビジョン)」については、2017年4月現在、東急線65駅に展開をしていますが、対象駅を順次広げ、2018年度初頭までに東急線全駅(こどもの国線、世田谷線を除く)に拡大する予定です。また、カメラ解析技術を応用して、ホーム上の混雑状況などを確認いただける新しいサービスを今後検討していきます。

さらに今年度は、スマートフォンを持たないお客さまも、通常時・異常時ともに必要な運行情報を確認できる環境づくりとして、東横線・目黒線田園調布駅や多摩川駅などにタッチパネル式サイネージを新設します。さらに、田園都市線池尻大橋～用賀駅では、各駅上りホームにデジタルサイネージを新設するなど駅構内サイネージの設置を拡大します。到着する列車の車両ごとの混雑度を表示する機能を、駅サイネージなどに付加することで、分散乗車の促進を図ります。



タッチパネル式サイネージ(大岡山駅)



ホーム上デジタルサイネージ(二子玉川駅)

以 上